

占領期の地方総合文芸雑誌事典

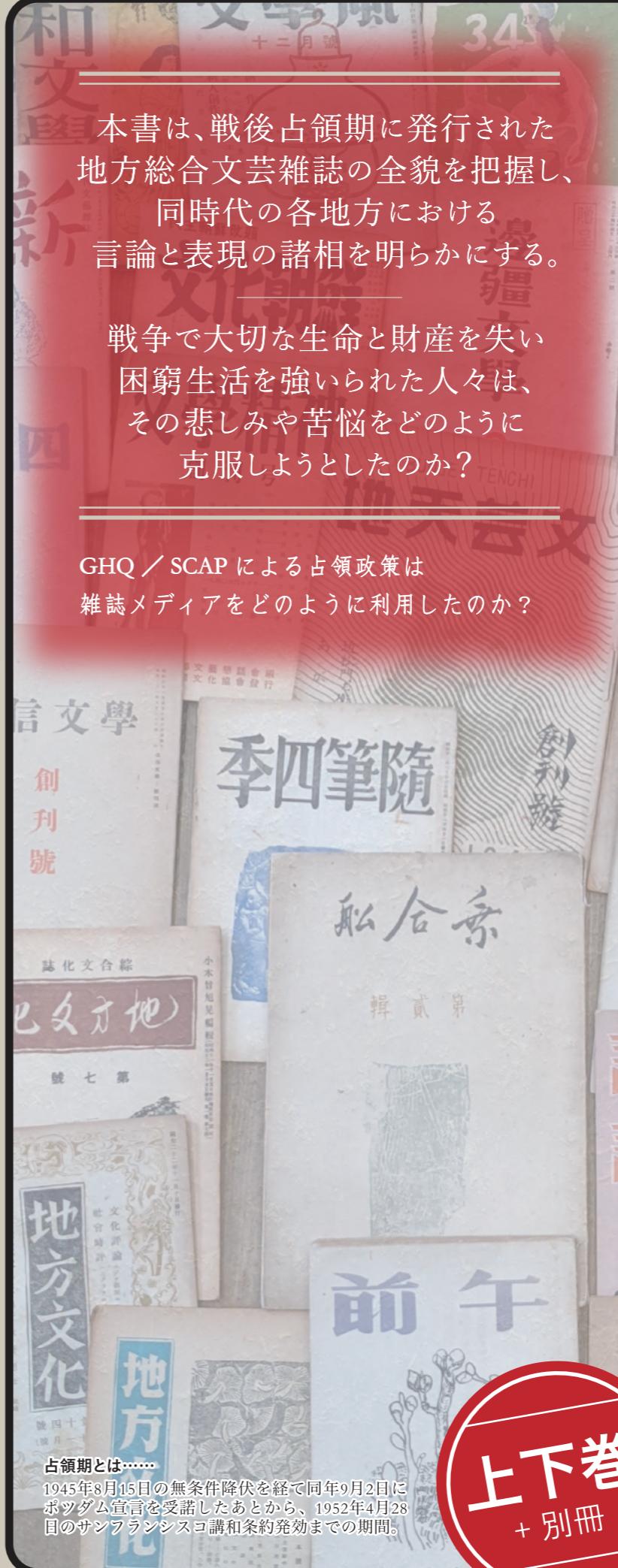
編 石川巧・大原祐治

上下巻
+別冊

本書は、戦後占領期に発行された
地方総合文芸雑誌の全貌を把握し、
同時代の各地方における
言論と表現の諸相を明らかにする。

戦争で大切な生命と財産を失い
困窮生活を強いられた人々は、
その悲しみや苦悩をどのように
克服しようとしたのか？

GHQ／SCAPによる占領政策は
雑誌メディアをどのように利用したのか？



占領期の地方総合文芸雑誌事典

○上下巻
+別冊

—<類縁書のご案内>—

吉田健二 編
占領期女性雑誌事典

一解題目次総索引

【全12+別巻】既刊9巻迄 <新組み>
A5判 紙上製函 各巻平均300頁 各巻¥20,000

1945年8月～1952年4月にわたる女性・家庭雑誌約140誌に関する目次を集成。現在第9巻まで刊行。雑誌タイトル毎に懇切な解題を付し、別巻には、総合執筆者索引を新たに作成する。『家の光』『美しい暮らしの手帖』『オール女性』『家庭科学』『家庭週報』『家庭の手帖』『北の女性』『藝苑』『女性公論』ほか多数収録。

大久保久雄・福島鑄郎 監修

『出版情報』

(戦時占領期出版関係史料集1)

【全2巻】
B5判 紙上製函 総430頁 ¥40,000

敗戦後まもない時期に書籍流通販売と編集出版の紐帯誌たることを模索した『出版情報』復刻版。「書店復興」「取次店再生記」「業界寸評」など出版流通関係の記事多数掲載、「女性」・「評論」・「大衆」・「科学」雑誌などの編集長が登場する各号の特集。図書館・学術研究機関の所蔵がほとんどなく今回その全貌が明らかに。出版をめぐる文化状況のトータルな把握を助ける。

大久保久雄・福島鑄郎 監修／吉田則昭 解説

『出版文化』

(戦時占領期出版関係史料集2)

【全5+別巻】
B5/A5判 紙上製函 総1,884頁 ¥108,000

戦中戦後の企画審査にともなう用紙割当、流通販売、企業合同等の出版政策、出版文化の問題に目を向けてさて、書籍雑誌の統計調査、雑誌統合廃刊、出版社統廃合などの、基本事実を得る。別巻に「文協改革史」、『出版文化』解説、「文協事件」の聞き書きなども収録。

大久保久雄・福島鑄郎 監修

戦後初期の出版社と文化人一覧

【全4巻】

B6判 紙上製函 総1,451頁 ¥60,000

第1巻には文化研究会編『戦後文化人名簿1～3輯』、研進社編集部編『最新文化人名鑑』、第2巻には日本読書新聞・田所太郎編『出版社・執筆者一覧昭和21年度版』、第3巻は同編『最新出版社・執筆者一覧昭和23年度版』、第4巻は日本出版協会・草野悟一編『出版社・執筆者一覧1951年版』を収録。索引化されていない、出版関係者を網羅した索引を新たに作成。

石川巧 編・解説

『国際女性』

—占領期女性雑誌メディア

【全1巻】
A5判 紙上製函 376頁 ¥22,000

敗戦直後の日本における出版文化、とりわけ戦禍を逃れて地方雑誌に作品発表の場を求める作家・学者・文化人の活動を把握するうえで貴重な雑誌。占領期における一般教養・啓蒙女性雑誌という位置に留まらず女性の地位向上さらには人間の条件として知性の重要さを読者に問い合わせた。新村出・谷崎潤一郎が雑誌顧問として迎えられ、雑誌執筆陣も豪華。大原祐治一推薦

戦後日本における新たな
雑誌出版ブームは全国の
地方都市からはじまる。

なかでも地域の身近な情報を伝える
ローカルメディアとしての機能を
担っていた地方総合文芸雑誌は、
幅広い読者を獲得して人気を集めた。

編 者—石川巧（立教大学）
大原祐治（千葉大学）
本—A5判・総562頁・並製
記—2022年7月
価—28,000円

『占領期の地方総合文芸雑誌事典 上巻
東日本編（北海道～三重県）』
220p 12,000円
ISBN978-4-910363-72-1

『占領期の地方総合文芸雑誌事典 下巻
西日本編（滋賀県～沖縄県）』
238p 13,000円
ISBN978-4-910363-73-8

『占領期の地方総合文芸雑誌事典 別冊』
104p 3,000円
ISBN978-4-910363-74-5

*附録資料
　　タイトル索引
　　人名索引
　　資料保存機関一覧
　　書影一覧

金沢文庫
Kanazawa Bumpokaku
〒920-0867 金沢市長土堀2-16-30
Tel 076-261-8884 Fax 233-3111
口書店様へ…ありがとうございます
直接小窓までお申し込みください

本事典で項目化された雑誌の多くは図書館や資料保存機関に揃ったかたちで所蔵されておらず、戦後の出版文化史においても忘却されている。

【北海道】

健民
大道
近代人
青年評論
リベルタ
北針
サンライズ
青年論壇

【東京都】

名古屋文学
新生日本文学
雄鶴通信
明朗
新生活
小天地（時代）
リーダーズ・ダイ
ジェスト
アメリカ文化
(アメリカ研究)
前進
談話

【山口県】

春秋
文藝風土
閑門トピック
鹿児島県本土

【三重県】

故郷
文化復興
リーダーズ・ダイ
ジェスト
女性と新民法
アメリカ文化
(アメリカ研究)

【徳島県】

葦笛
徳島文芸
文芸天地
うるほひ
詩脈
近代詩人
双曲線
作品群

【京都府】

新文学
新月
文学地帯
前進
談話

【神奈川県】

人民戦線
民主朝鮮
(文化朝鮮)
かまくら
作品

【大阪府】

文化人
眞日本
東西
新世間
新生日本

【香川県】

K.O.K (キヨト・
オーサカ・コベ)
顔 Visage
四国春秋

【愛媛県】

四国文化

【高知県】

月刊高知
高知のねさんす

【兵庫県】

水耀
神戸文化
金曜

【福岡県】

暁鐘
九州文学
月刊神戸
神戸春秋
庶民評論

【奈良県】

大和文學
玄想 PENSEE

【和歌山県】

月刊紀州
観光紀州
紀伊文化
パラダイス
行燈

【佐賀県】

暖流
紀州文学
月刊佐賀

【長崎県】

人文化
文芸山脈
月刊長崎

【熊本県】

九州人
熊本評論
月刊おかやま

【大分県】

暖流
九州浪漫
豊州文学
文芸風土
月刊おかやま

【宮崎県】

文化廣場
新樹
輿論時代

本書の効力……

- 地方と中央とのあいだにある情報の力学を明らかにし、地方の雑誌が戦後日本の新しい社会・文化・風俗の形成に果たした役割を検証することができる。
- 戦後占領期における人と人のネットワーク、同人グループや文化団体の交流、そして遠隔地に生きる人々がさまざまななかたちで横の連携を深めていく様子が見えてくる。
- 第四の特徴は、戦後占領期に萌芽した雑誌出版文化が、1950年代以降の地方文化運動、サークル運動、職場雑誌、ミニコミ雑誌などの隆盛に貢献した事実を明らかにしている。

鹿児島県【奄美群島】—『自由』

鹿児島県【奄美群島】
『自由』

- ① 1946年12月軍政府の認可と推測され、創刊は翌年の1月か2月か（間弘志2003）。終刊は54年1月号
- ② 発行兼印刷人・重江国雄、編集人・肥後豊、1巻5号47年10月号より、発行兼印刷人・重江善勝、編集人・西田功、3巻19号49年7月号より、発行人・泉芳朗、編集人・西田功、印刷人・重江善勝、49年10月号より、印刷人・久保井清二
- ③ 名瀬市自由社（名瀬市金久区柳町）
- ④ 自由社印刷部（名瀬市金久区柳町）
- ⑤ 廃刊の54年1月号まで85ヶ月で68冊発行。うち合併号は8冊。
- ⑥ 創刊当初は20頁で10円、49年7月号から39頁編成で20円、49頁編成で25円（間弘志2013）。
- ⑦ なし
- ⑧ 鹿児島県立図書館、鹿児島県立奄美図書館（45冊が所蔵。創刊から7号まで、14号（48年11・12月号）から24号（49年12月号）までは所蔵されていない。）。

創刊の経緯

1946年12月に軍政府の許可を得る。創刊から7号までの所蔵が不明であるため、雑誌創設期の記事を見ることはできない。1948年2月号（本社1周年記念号）の「諸家に聽く諸島文化の目標」では「自由が曲がりなりにも今日諸島文化の為に微力をつくしだした」の本社編集局の言葉がある。1949年7月号（19号）から、重江善勝から泉芳朗が雑誌発行人を引き継ぐ。泉は、小学校の校長から大島

福岡県



和歌山県



Q本書記載の調査項目

項目には、

I. 書誌事項

- 創刊・終刊の年月
- 編者・主催・主幹など
- 発行所・発行所所在地
- 印刷所・印刷所所在地
- 発行回数
- 判型・頁数・発行部数・定価
- 前身・後身・改題など
- 復刊・複製・資料機関の所蔵状況

II. 創刊の経緯

III. 主な執筆者

IV. 特徴ある誌面

V. GHQによる検閲の状況

を基本項目とした。

